

千葉のまちの礎を築いた千葉一族の中興の祖

千葉常胤を知ろう

①NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」展

NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に千葉常胤が登場しています。ドラマの世界観を楽しみながら、常胤の活躍を見てみませんか。

日時 4月23日(出)～5月15日(日)9:00～17:00
 会場 郷土博物館
 内容 常胤を演じる岡本信人さんのビデオメッセージ、番組紹介パネル、フォトスポット、撮影小道具などの展示

②パネル展「千葉常胤と13人の御家人たち（北関東編）」

千葉常胤と関東の有力御家人の中から7人の御家人を紹介し

す。
 日時 5月19日(休)～7月12日(火)9:00～17:00
 会場 郷土博物館
 内容 畠山重忠、比企能員、新田義重、足利義兼、小山政光、宇都宮朝綱、八田知家を紹介



「鎌倉殿」と千葉常胤

五、常胤が献上したごちそう

毎週日曜日、NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が放送中です。俳優の岡本信人さんが演じる千葉常胤は、千葉のまちの礎を築いた千葉一族の中興の祖といわれており、源頼朝を助け鎌倉幕府の成立に大きく貢献し、多くの功績を残した人物です。

鎌倉時代、幕府ではさまざまな儀式が行われていましたが、常胤に関わるものでは、「**垢飯**」がよく知られています。垢飯とは、慶事の際、御家人が将軍に祝膳を献上した後、そこに集う御家人達にもふるまうことで、将軍と御家人との主従関係と御家人間の同輩関係を再確認する、とても重要な儀式でした。なお、垢飯は現在の「大盤振る舞い」の語源にもなっています。

鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」には、常胤が、元日の垢飯を幾度も担当していたことが記されています。元日の垢飯を任されることは、特に名誉なこととされ、幕府内で筆頭の御家人が行うものであったとも考えられています。

では常胤は、どのようなごちそうを振る舞っていたのでしょうか。

頼朝の鎌倉入府後初めて迎えた、1185年(治承5年)の元日垢飯を任された常胤は、1メートルの大鯉をはじめ、数えきれないほどの美酒や肴など贅を尽くした料理をふるまったとされています。

残念ながら祝膳の詳しいメニューは記されていませんが、当時の記録から、房総ではアワビ、ハマグリ、カツオ、サケや、シカ、キジ、果物などの山海の幸に恵まれていた様子うかがえます。

豊かな食材に彩られた「常胤のおもてなし料理」が、鎌倉殿源頼朝の御膳を賑わした様子を想像してみるのも、楽しいかもしれません。

千葉氏ポータルサイト



中世の食事の様子(「酒飯論絵巻」国立国会図書館デジタルコレクションより)

鎌倉殿の13人 毎週日曜日 20:00から (NHK総合テレビ)
 18:00から (NHK BSプレミアム・BS4K)

問都市アイデンティティ推進課 (①、「鎌倉殿」と千葉常胤) ☎245-5660 FAX245-5476

郷土博物館 (②) ☎222-8231 FAX225-7106 月曜日(祝・休日の場合翌日) 休館

動物公園日誌

日直 翼 (ダチョウ)

やあ、みんな。ぼくはダチョウの翼。よく知っているかもしれないけど、ダチョウは鳥のなかまの中で一番体が大きいんだ。飛ぶことはできないんだけど、走るスピードには自しんがあるよ。そうだなあ、だいたい時速50キロメートルくらいだから、車と同じくらいかな。すごいでしょ？



ぼくは、去年の11月に千葉市動物公園にやってきて、3月にてんじ場デビューしたんだ。みんなと会えるのがうれしくて、つい近づいて行っちゃうかもしれないけど、こわがらないでね。

さいきんは、しいくいんさんのうでやぼうしを、くちばしでつついて遊ぶことにハマっているよ。ぼくはとっても楽しいんだけど、しいくいんさんはあまり楽しそうじゃないんだ。もしかすると、つつく力が強くていたいのかなあ。今度からは、もう少しやさしくするようにするね(できるかなあ…)



ぼくのパートナーは、瞳。同じ日に同じぼく場からやってきたよ。瞳は、ぼくみたいに子どもっぽくなくて、おとなしいせいかなんだ。見分け方は羽の色で、ぼくが黒、瞳が茶色っぽい色をしているよ。いまはまだ、なかよくなっているとちゅうだけど、いつかは二人の子どもができるといいなあ。

問動物公園 ☎252-1111 FAX255-7116



学芸員が選ぶ 今月のイッピン

清水九兵衛《MASK II》

1977年 (一財) 草月会蔵

アルミニウムの鈍い光沢や質感が、印象的な彫刻作品です。横にした三角柱の上を、まるで生き物がはっているようにも見える「MASK II」の作者は、戦後の抽象彫刻をけん引した清水九兵衛(1922-2006)です。



彼によるパブリック・アート(公共の場所に設置された芸術作品)は、東京都庁やJR京都駅など全国各地にあり、作品と置かれる場所の関係は、作者にとって常に重要な問題であり続けました。

また、清水九兵衛は「京焼」の名家として250年余りの歴史を持つ清水家を継いだ、陶芸家・七代清水六兵衛その人でもあります(襲名は1980~2000年)。清水九兵衛/六兵衛が生み出す造形は、抽象彫刻と器物のどちらにおいても創意工夫に富み、オリジナリティが厳しく追求されたことが、作品から伝わってきます。



生誕100年清水九兵衛/六兵衛(～7月3日(日))にて展示中。ご覧ください!

森学芸員

本作は能面への関心から、作品名が「MASK(マスク)」とされています。能面やかつら、黒瓦屋根の家屋や茶室、石庭など、日本の風習や風土の中で永く育まれた「質感の美学」が、京都を拠点に活躍した彼の作品の醍醐味といえるでしょう。

問市美術館 ☎221-2311 FAX221-2316